

問

リーマンショック以来、世界的な大不況の影響がまだに続いている。国は税収の落ち込みにより借金をしなければ新年度予算が組めない状況である。公明党のマニフェストでは、「地方公共団体の行革の推進」として都

川村多美男  
議員

特別職員の高額退職金の見直しを

町長 当該組合議会の手続きが必要

道府県や市区町村において、歳出の削減を推進すること、及び都道府県及び市区町村の首長・副首長等の特別職員に四年毎に支給される退職金の見直し（廃止・縮減）を掲げている。

奉仕する立場の特別職員として特権的な退職金制度を見直し、その財源を町民の福祉、医療、介護、教育等の財源に当てていくべきと考えます。町民目線に立ち特別職員の退職金の見直し（廃止・縮減）を次期・首長選挙の公約として掲げ推進すべきではないか。

答

本町は北海道市町村職員退職手当組合に加入しており、特別職、一般職ともに退職時の退職金支給に対応している。特別職の退職金の支給率は当該組合の退職手当条例に定められており、支給率の削減や廃止は当該組合議会の条例改正の手続きが必要で本町だけで解決出来ない。次期首長選挙の公約にとの質問については、現時点においては、次期出馬について何ら決断していない。

一般質問

町政を問う

第一回定例会では五名の議員が行いました。質問と答弁の要旨は次のとおりです。

問

現在町では、七十才以上の人に敬老バスが発行され、町内で、一〇六人の方々が利用している。さらに、市街地に小型のバスを運行することによってお年寄りが助かると思うが、実施できないか。また、市街地を巡回するバス、タクシーのチケットがあれば良いと考えるがどうか。

答

七十才以上の

高齢者に対し、バス使用料を一〇〇%助成免除する制度だが、本制度は、本町市街地区以外で交通弱者のため患者バスを町営バスへ転換する際に利用者を支援する目的で行っている。しかし、市街地区においても、生活、通院等に支援が必要な事も事実で市街地の循環バス進行の可否を検討したい。なお、行政が直接事業を実施するか、民間の活力で行うのかも検討していきたい。

市街地の小型バス運行で高齢者支援を

後藤 勲  
議員

町長 行政が行うか民間が行うか検討していく



町営バス



深見 迪 議員

高齢者の見守りの維持強化と必要な介護措置を

町長 高齢者のためのまちづくりに取り組む

**問**

現在標茶町では、七十五歳以上の一人暮らしや夫婦に対する、全戸訪問と見守り、介護非該当者の人に対する必要な介護措置を行っている。

急速に進む高齢化時代にあって、必ずしも十分とはいえない介護保険制度の中で、これを補う意味で町のとっている施策は住民にとって非常に心強いものである。

これは、町長の町政執行方針にある「一人の不幸も見逃さない」という基本理念にかなつたものであると考えるが、町がこのような施策を行っていることについて、高齢者を取り巻く環境と背景、目標と理念について町長の所見を伺う。

高齢化がさらに進むことは町の各種データにも示されているが、今後このような施策をさらに拡大強化していく必要があると考えるが、

町長の所見を伺う。

**答**

本町においても平成二十三年三月には高齢者の単身又は夫婦世帯が五十八パーセントに達している現状がある。

現在、本町では、介護保険法及び障害者自立支援法の非該当者や老人福祉法に基づく生活弱者に対するホームヘルプサービスを実施している。また、昨年四月一日から、七十五歳以上の単身又は夫婦世帯の訪問事業を開始した。

高齢者が住みなれた地域で生き生きと、さわやかに過ごして生きていくために、「自助」「共助」「公助」のバランスをとるとともに、社会経済情勢の変化に対応したまちづくりに取り組んでいきたい。



高齢者のくらしを支えるふれあい交流センター

黒沼俊幸 議員

牛乳の消費拡大をどう進めるか

町長 「牛乳を食べよう」運動の一層の推進を図る

**問**

平成二十一年の牛

乳生産の動向では、一昨年店頭から姿を消したバターも五ヶ月の在庫が貯まり、飲用乳も大幅に需要が下がって、大きく変化している。酪農を基幹産業とする本町としては重大なことと受けとめている。生産者は自ら消費者の立場となり、牛乳の良さを宣伝すべきと常々考えているが、昨年十一月に酪農振興会が札幌でヨーグルト、牛乳の宣伝を行った内容はどうであったか、反応と今後の目標などを伺う。

**答**

標茶町酪農振興会連合会では、平成二十一年十一月に札幌市での活動では、十四名の生産者が牛乳五百本、ヨーグルト五百本を手渡し、本町発の「牛乳を食べよう」と呼びかけてきた。道行く方々から好評を博し、のちほど「おいしかった」と電話をくれた方もいたということであり、生産者自らが消費者と直に接することで消費者が何を求めているのかを感じるとともに、今後は地元乳業工場との連携や内容充実を図りながら引き続き支援をしていきたい。

